



ICOMOS Japan
c/o Japan Cultural Heritage Consultancy
2-5-5-13F Hitotsubashi, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-0003, Japan.
Tel&Fax: +81-3-3261-5303
E-mail: jpicomos@japan-icomos.org

緊急調査報告

「神宮外苑いちょう並木」

100年の時を超えて継承されてきた並木。ついに枯損が始まっています。

——調査日：2022年10月29日～11月6日——

(一社) 日本イコモス国内委員会委員長 岡田 保良

(一社) 日本イコモス国内委員会理事 石川 幹子

連絡先：Tel/Fax 03-3261-5303

Email jpicomos@japan-icomos.org

調査協力者

東京農業大学客員教授

濱野 周泰

1. 「神宮外苑いちょう並木」緊急調査の目的

現在、神宮外苑地区の再開発計画が進行しており（事業者：三井不動産株式会社、宗教法人明治神宮、独立行政法人日本スポーツ振興センター、伊藤忠商事株式会社）、大量の歴史ある樹木が伐採されることから、多くの人びとが計画の見直しを求めています。

なかでも、外苑青山口から聖徳記念絵画館（重要文化財）に向かって、創建時より100年の時を超えて創り出されてきた「いちょう並木」は、東京のみならず、世界に類をみない「美しい並木」で、近代日本を代表する文化的資産となっております。

再開発により、いちょう並木の道路境界より、わずか8mの位置に新神宮球場が建設される計画が発表され、東京都環境影響評価審議会においても、評価書案に記載された内容に関する根拠の不明確さが指摘され、いちょう並木については、永続的保存に向けた科学的根拠の提示が求められたところです。

イチョウの総数は、146本であり、1923年に当地に植栽されてから、1本も枯死することなく、100年の星霜を積み重ねてきました。

この並木は、新宿御苑の旧玉川上水沿いの火防樹として、江戸期に植栽されていた、イチョウから、明治43年（1910年）頃、当時内務省技師として新宿御苑と代々木御料地に奉職しておられ、後に外苑整備を担われた折下吉延先生が、銀杏（ギンナン）を採取され、苗木を育成し、1923年に、この地に植栽されたものです。したがって現在樹齢は112年、2023年には、「いちょう並木・100周年」を迎えることとなります。

文化的資産である「いちょう並木」の未来永劫にわたる保全は、市民のみならず、文化庁、再開発計画を指導しておられる東京都、地元自治体である港区や新宿区、事業者におかれましても、全員の合意事項となっております。



ICOMOS Japan

c/o Japan Cultural Heritage Consultancy
2-5-5-13F Hitotsubashi, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-0003, Japan.
Tel&Fax: +81-3-3261-5303
E-mail: jpicomos@japan-icomos.org

日本イコモスでは、東京都環境影響評価審議会において十分な情報が提供されていないか
った再開発に伴う樹木の保全・移植・伐採について精査を行い、検証可能な「毎木調査」の
データの提示を、2022年10月3日に、事業者に要請をしておりました。2022年10月28
日に事業者より回答があり、最新のデータが公表されました。

しかしながら、146本のいちよう樹については、約4年前の調査（2018年12月～2019
年）が更新されておらず評価も、全く変更がありませんでした。

日本イコモスでは、2022年1月より、季節ごとの変化も踏まえて、現地調査を「公道よ
り」行っており、特に、いちよう並木に大きな異変、すなわち、枯損が生じている樹木があ
ることを確認しております。

「未来永劫の保全」を確約しておられる事業者が、樹木医の御指導のもと、どのように実
態を把握しておられるのか、データの公表は不可欠です。

東京都の小池百合子知事は、2022年5月26日、事業者に向けて「神宮外苑地区におけ
るまちづくりに関する要請について」を発しておられ、「一本 一本を大切に扱い、神宮外苑
の豊かな自然環境の質の保全に努めること。とりわけ**神宮外苑の象徴である4列のいち
よう並木の保全には万全を期すこと**」と述べておられます。

今回、公表された「いちよう並木」に関するデータは、4年前のものでした。このため、
日本イコモスでは、樹木学の権威であり、樹木医を指導する公的役割を担っておられ、『鎮
座百年記念第二次明治神宮内総合調査』において、森林及び植物調査の指揮・統括にあた
られた、東京農業大学客員教授・濱野周泰先生の御協力を得て、植物生態学、樹木学の見地か
ら、「いちよう並木」の緊急調査を行い、とりまとめた次第です。

丁寧な管理に当たっておられる神宮外苑におかれましては、詳細な内容を熟知されてい
ることと存じます。**事業者におかれましては、4年前のものではなく、現状がわかるものを
公明正大に開示すべきと存じます。**未来永劫の保全を確約しておられる「いちよう並木」で
す。学術調査に基づく、科学的な保全のための証左（エヴィデンス）の提示を、重ねて、お
願いもうしあげます。また、今回、4年前のデータを最新として提出された社会的責任は重
大であり、その責任について公表をしていただきたく、お願い申し上げます。

2. 調査の方法

- ・ 日時：2022年10月29日～11月6日
- ・ 方法：事業者が開示された毎木調査表（2018年12月25日～2019年1月28日）を
参照し、「公道」より、目視により調査。146本のデータシートを作成
- ・ 視点：① 全体：樹勢、樹形、枝の伸長量、幹や大枝の欠損や腐朽状況、緑量、葉色、
葉の大きさ、葉の密度



ICOMOS Japan

c/o Japan Cultural Heritage Consultancy
2-5-5-13F Hitotsubashi, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-0003, Japan.
Tel&Fax: +81-3-3261-5303
E-mail: jpicomos@japan-icomos.org

- ② 先端部の状況を精査
- ③ 地上部の利用状況
- ④ 周辺環境の影響
- ⑤ 保全に向けた今後の課題

・樹高・幹周・葉張りについては、事業者の毎木調査に準拠

3. 調査内容

樹木は、一般に同じ気候帯では、同一樹種の特徴は、ほぼ同じと言われています。しかし、実際には生育する環境により多様な変化がみられます。写真は、2022年11月3日に撮影した、外苑青山口から絵画館方面の「いちょう並木」です。



写真 外苑いちょう並木 (2022年11月3日 撮影)

樹木により、黄葉が多様であるのは、個体差だけではなく、都市環境における、日照・通風・樹木相互の位置関係・道路からの輻射熱等、様々の生理的ストレスによる複合作用に起因しています。

黄葉している樹木の先端部分を詳細にみますと、先端部分の枝の分岐、枯損などが見られ、樹木全体のバランスの崩れが、先端部に顕著に出現していることがわかります。このため、今回の調査では、通常の調査に加えて、先端部の状況を把握するものとし、146本のデータシートに、基本的に、①樹形全体、②先端部の状況、③枝の伸長状況と緑量、④地上部の状況の4つの写真を挿入し、わかりやすいデータシートの作成を行いました。



ICOMOS Japan

c/o Japan Cultural Heritage Consultancy
2-5-5-13F Hitotsubashi, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-0003, Japan.
Tel&Fax: +81-3-3261-5303
E-mail: jpicomos@japan-icomos.org

<事例：枯損、衰退がはじまっているイチョウ：事業者の毎木調査番号 29>

イコモス毎木調査 A-11 (A 列 11 番、資料参照)

青山口から、向かって左側。レストラン (Shake Shack) 前のいちょう。



撮影 2022 年 11 月 4 日

<データシート 事例>

並木 A 列目 青山口から絵図館方 向 左手より1列目	樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張り (m)	評価
A-11 毎木調査番号 29	23.0	283	10.0	d 梢・樹幹枯損



- ・ 2022年10月28日に公表された事業者の毎木調査では、活力度は「A」ランクとなっている。調査日は2018年12月～2019年1月であり、更新されていない。この4年間で大きな変化が生じている。
- ・ 樹幹上部が、枯損している。
- ・ Shake Shack の野外空間として、ベンチ・テーブルが置かれており、根元がインターロッキング舗装となっている。植え込みは、約1.6m。
- ・ 先端部分は枯損しており、葉の先端から下方に向かい、枝が全くない。一つの樹木でありながら、バラツキがある。
- ・ 根元の舗装、及び斜面となっており、植え込み雨水が流入していない。土壌の表面に直打ち舗装となっている。
- ・ 水が入るところすくないため、土壌に空洞がなくなっており、根は腐欠状況になっている。
- ・ 当分は、下方の敷で充満を行っていく。

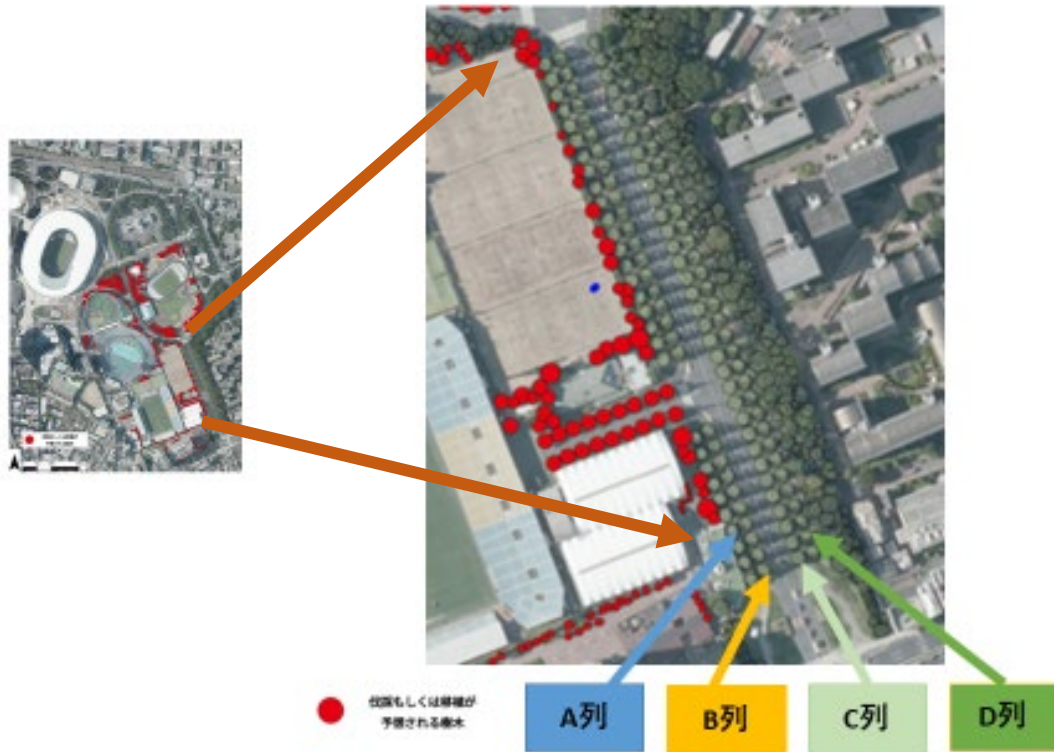


ICOMOS Japan

c/o Japan Cultural Heritage Consultancy
2-5-5-13F Hitotsubashi, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-0003, Japan.
Tel&Fax: +81-3-3261-5303
E-mail: jpicomos@japan-icomos.org

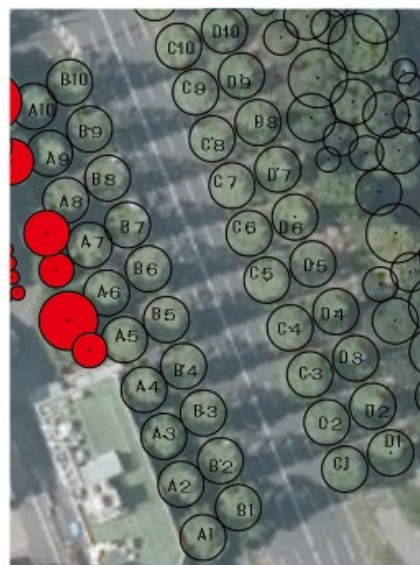
4. いちょう並木の位置と番号

神宮外苑いちょう並木 位置図



神宮外苑い ちよう並木 位置図

A1～10
B1～10
C1～10
D1～10





ICOMOS Japan

c/o Japan Cultural Heritage Consultancy
 2-5-5-13F Hitotsubashi, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-0003, Japan.
 Tel&Fax: +81-3-3261-5303
 E-mail: jpicomos@japan-icomos.org

神宮外苑い ちよう並木 位置図

A1 1 ~ 20
 B1 1 ~ 20
 C1 1 ~ 24
 D1 1 ~ 24



神宮外苑い ちよう並木 位置図

A2 1 ~ 30
 B2 1 ~ 30
 C2 5 ~ 34
 D2 5 ~ 34

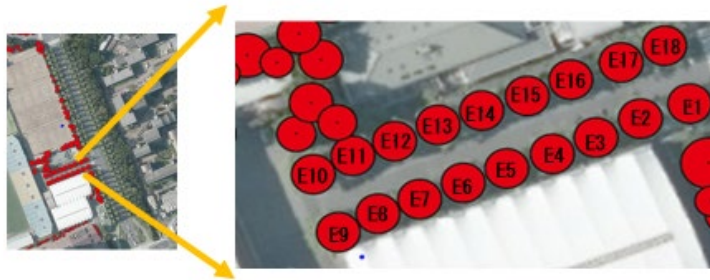




ICOMOS Japan

c/o Japan Cultural Heritage Consultancy
2-5-5-13F Hitotsubashi, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-0003, Japan.
Tel&Fax: +81-3-3261-5303
E-mail: jpicomos@japan-icomos.org

神宮外苑いちよう並木 位置図 (秩父宮ラグビー場 アプローチ)



5. 毎木調査に基づく評価 (146本のデータシート：別添資料参照)

毎木調査 評価ランク表

評価	本数	内容
健全	a + ●	51 本 樹形・樹勢・先端部の状況・枝の伸長状況と緑量、地上部の状況など、極めて良好であり、健全。
	a ●	56 本 樹形・樹勢・先端部の状況・枝の伸長状況と緑量、地上部の状況など、良好であり、健全。
	a - ●	28 本 樹形・樹勢・先端部の状況・枝の伸長状況と緑量、地上部の状況など、良好であるが、一部、生理的バランスの崩れ、剪定による樹形のバランスの崩れ、過度の利用等により問題が生じている。
良好	b ●	5 本 樹形・樹勢は比較的良好であるが、先端部が枯損しており、今後の慎重な経過観察が必要である。個々の樹木の問題に対し、データ分析を行い、適切な維持管理方針の策定と実施が必要である。
要注意	c ●	5 本 樹形・樹勢・先端部の状況・枝の伸長状況と緑量など、衰退がみられ、今後、環境の変化により、生育に重大な問題が生じる可能性がある。現在の問題の分析を行い、イチョウの持続的生育のために、適切な維持管理施策の導入を早急に行う必要がある。
著しく枯損	d ●	1 本 樹形・樹勢・先端部の状況・枝の伸長状況と緑量に大きな問題が生じており、一部では完全に枯損している部位が生じている。円錐形の外苑における「イチョウの樹形」を回復することは、不可能となっており、今後の対策について、検討が必要である。
合計	146 本	



ICOMOS Japan

c/o Japan Cultural Heritage Consultancy
2-5-5-13F Hitotsubashi, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-0003, Japan.
Tel&Fax: +81-3-3261-5303
E-mail: jpicomos@japan-icomos.org



いちよう並木の評価図： 調査日 2022年 10月29日～11月6日)

調査者：中央大学研究開発機構・機構教授 石川幹子

東京農業大学客員教授 濱野周泰

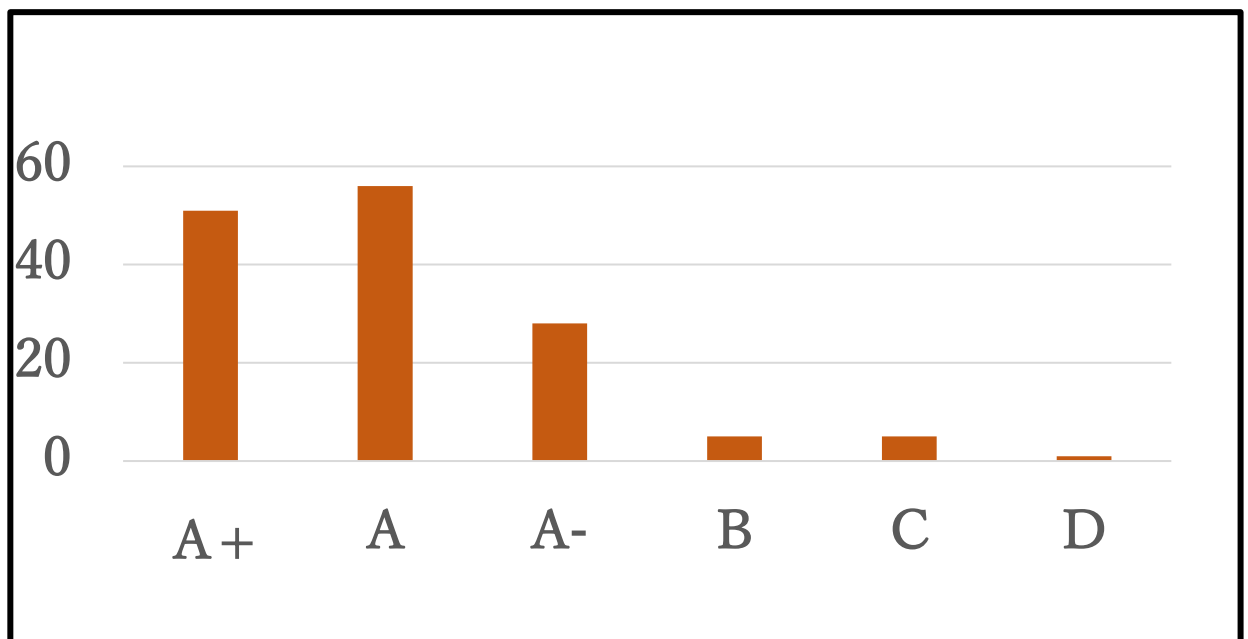
図版作成協力：LANDSCAPE DESIGN (マルモ出版)

注) 図中のいちようの色 (緑～黄緑～黄色～オレンジ～赤) は、評価表に対応



いちょう並木（A列～E列）の毎木調査に基づく評価

評価 列	a +	a	a -	b	c	d	計
	健全			良好	注意	枯損	
A 列	12	7	5	0	5	1	30
B 列	12	7	9	2	0	0	30
C 列	8	13	11	2	0	0	34
D 列	11	22	1	0	0	0	34
E 列	8	7	2	1	0	0	18
合計	51	56	28	5	5	1	146



4. 再開発計画に伴う「いちょう並木」への影響と、今後の対応

事業者が2022年10月28日に更新をおこなった「神宮外苑地区のみどり」についての記載内容を踏まえて、「いちょう並木」への開発の影響を考え、永続的保全に向けた、146本のイチョウに対する、今後の対応について、とりまとめました。



ICOMOS Japan

c/o Japan Cultural Heritage Consultancy
2-5-5-13F Hitotsubashi, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-0003, Japan.
Tel&Fax: +81-3-3261-5303
E-mail: jpicomos@japan-icomos.org



文化交流施設に隣接。人流の増大と樹木としてのイチョウの保全が大きな課題。

外苑内の主要動線がいちよう並木を横断。人流によるイチョウの樹木への影響は、現在、枯損している樹木の状態からみて、大きな懸念が生じている。

既に、イチョウの枯損・衰退が進行しているエリア。
いちよう並木の直近 8m の位置に、新神宮球場の外野スタンドと商業施設が建設されることによるイチョウへの甚大な影響。

青山口：超高層ビル（180m、190m）の建設に伴うイチョウの生育環境の大きな変化

- ・風害、地下水遮断、
- ・人流の増大、
- ・シンボルとしての景観の破壊

←→ 歩行者動線（地上）
←--→ 歩行者動線（デッキ）